

東京都立世田谷泉 高等学校 令和5年度 教科： 総合 科目： 人間と社会

教科： 総合 科目： 人間と社会 単位数： 1 単位

対象年次・講座： 第1年次 I部：①④ II部：②⑤ III部：③⑥

教科担当者： ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯

使用教科書： (人間と社会 (東京都教育委員会))

教科 総合 の目標：

- 【知識及び技能】 課題に関わる概念を理解し、知識技能をもってそれを形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 生活と自己の関わりから問を見だし、自身で課題を立て、その情報収集と整理分析、まとめをもって表現できるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 主体的、協働的に取り組むとともに、新たな価値を創造し、よりよい社会の実現を望み、実現しようとする態度を養う。

科目 人間と社会 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間と社会の関わりを理解し、その知識や技能をそのままにせず、価値を理解した行動を行う。	実社会の間や課題に対して、根拠となる情報収集を基に、合理的かつ建設的に新たな問を示唆、または打開策の提示を行う。	主体的な行動から協働的な学びへつなぎ、互いに磨き合う状態、または価値の創造を行うとともに、深い学びに向かう。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
前期	<ul style="list-style-type: none"> 働くことの意義 働くことと社会貢献のつながり 理解し、社会人としての立ち居振る舞いについて考察、実践する。 役割と責任 協働作業を通して成す力について考察、実践する。 チームを動かす力 協働作業を通して、合理的かつ効率的にチームが動き、かつ相乗効果を生み出すための考察、実践ができるようになる。 お金の意義 稼ぐこと、蓄えること、使うこと、それぞれの意義と扱い方を考察し、お金との付き合い方を模索する。 支え合う社会 奉仕的活動と車いす修繕活動を通して、地域社会や国際貢献とのつながりを暮らしの中から模索、実践的に行動できるようにする。 人間と社会～これからの生き方～ 学んだことは、暮らしの中にどのように生きるかを考察し、人間生活をよりよくするための方策を練る。また課題研究につながる命題への糸口を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッション 「なぜ働くのか」 「責任とは」 「役割を果たすとは」 「リーダーに求められているものは」 「リーダーに求めているものは」 「チームをまとめるために必要なことは」 「暮らしにとってのお金とは」 インスタントシニア (装具を身に付けたシニア体験) 車椅子試乗体験 (車いす使用者の目線を体験) 空飛ぶ車いす活動 (近隣からの車いすの回収、修繕、日本福祉弘済会を通じた海外への送付) 地域清掃 振り返りのためのワークシート 授業内報告書 	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッション 1. 自分の意思を何かしらの形で表現、伝えることができる。 2. 他者の意見を尊重できる。 3. 意見の食い違いを是正または妥協し、折衝することができる。 4. 場や進行などの調整役となれる。 5. 多数決によらない決議、決定に至れる。 6. 他者を知らうとする姿勢、行動がある。 7. 自身も胸襟を開いた姿勢、行動がある。 	○	○	○	17	
				<ul style="list-style-type: none"> 体験活動 1. 寛容な行動をとれるようになった。 2. 言動、および行動の変容がある。 3. 知識を実体験で補強し、さらによりよくあるべき提案を行える。 4. 実体験と生活が結びつき、深い学びにつながっている。 5. 主体的、協働的な活動を行った。 6. 身の丈にあったボランティアを行えた。 7. 他者とのつながり、体験活動が特別なものではないと理解し、変容の糧とできた。 	○	○	○	20
				<ul style="list-style-type: none"> 自己評価 1. 自己理解を深めた。 2. 他己理解を深めるすべを得た。 3. 自己と他者の関係を的確にとらえ、よりよい社会形成のための提言を行えるようになった。 4. 主体的協働的な視点で、人間と社会を理解できるようになった。 	○	○	○	2
後期	1単位につき、半期にてクラスを入れ替えて行う講座のため、後期分は前期と同じ。							
							合計	
							39	